

机邊だより

倉橋惣三

○クラーク大學の兒童

研究事業

今世界で最も盛んに兒童研究をなして居る大學が何處かといへば、米國のクラーク大學でありませう。總長のスタンレー、ホール博士自らが最も熱心なる兒童學者でして、博士及門下諸氏によつて今日まで此の學問の爲に貢献されたことは、非常に大なるものであります。然るに一昨年から一層その盛大を加へて、兒童に關する學問的智識の蒐集、播布、増加を計るのを目的とせる新組織が出来ました。今、博士自身の書いて居られる處によつて大體その状況を御紹介しませう。

第一部兒童に關する圖書の蒐集 世界中で出版發行された、兒童に關係のある一切の書籍、雜誌類は勿論、如何なる報告でも「トラクト」でも、兒

童に關係の少しでもあるものは悉く茲に蒐めらぬのです。此部の主任のウキルソン氏が別に詳しく報告して居る處を見るに、其の蒐集の範圍の廣く規模の大なること、又特に其の仕事の活潑なること驚嘆の外ありません。

第二部兒童の出産に關する問題の調査 兒童に關する總ての養護問題の根底が、此の出産問題であることは言ふまでもない。然るに、近時文明國に於ける出生率減少の傾向、晩婚の増加、育兒の慣習の衰頽等は如何の現象でせうか。又性慾に關する衛生及び遺傳に關する研究等は、此の問題と直接の關係を有して近來特に盛んに注意されて來出しなりました。即ち兒童研究事業の中に、是非此問題を加へる必要が有ります。此の部門に關する報告は追つて主任ブスク氏によつて發表さるゝ筈です。其の折再び御紹介することにしませう。

第三部兒童の健康及び疾病に關する問題の調査

此の部門に於て、家庭、幼稚園、小學校の諸衛生問題、兒童期に於ける傳染性疾患の問題、一般婦人科及び兒科醫學、一歳以下の幼兒死亡率の増加に對する研究、都市生活の兒童に及ぼす衛生上の諸問題、其他のことが研究されます。又同時に、乳母、産婆、或は育兒用牛乳の問題等も研究されます。此の部の主任は、兒童衛生に關して有名なバルンハム氏であります。

第四部異常兒童に關する問題の調査 普通小學校に於ける所謂劣等生及低能兒問題、白痴教育、盲生教育、聾啞教育等のことが研究されます。

第五部兒童の犯罪に關する問題の調査 近來我國でも稍注意されて來た不良兒問題、殊に少年犯罪に對する原因及取締法の研究などが此部でせられます。

第六部性的惡習俗に關する問題の調査 成人の不道德の中、性的惡習俗は最も直接に兒童問題と關係あることであります。此問題は第二部と關

聯せる性質のものですが、殊に全世界に涉つて最も研究を要すべき廣い範圍を有する處から、特に此部門が設けられてあります。

第七部兒童の言語に關する問題の調査 兒童の心理的研究の上に於て、其の言語の發達が最も重要な研究であると共に、教育の上にて語學教授法の研究は最も緊要の問題であります。即ち特に此の部門がある譯であります。

第八部兒童の體格及社會的關係問題の調査 兒童の身長、體重其他體格の發達に關する調査、氣候、季節の影響、都市生活及田園生活の影響、兒童保險の問題、法律上に於ける兒童證人問題、其他兒童に關する社會的慣習の諸調査が茲でせられます。

第九部實驗教授法に關する研究 即ち實驗教育學として我國にも唱導された、諸學科の教授法の實驗的研究をします。

第十部兒童勞動問題及職業教育に關する調査

兒童労働の問題は近世の社會問題の中、最も攻究改良を要することの一つである。我國に於ても近頃工場法の草案が出まして漸次此の問題の改良が與へられようとして居る。併し、教育との關係及び其工場の衛生問題等、速に解決を要する問題は尙ほ他に多くあります。又それと關聯して、職業的技術教育の問題も亦大に研究を必要とします。

第十一部道德及宗教教育に關する問題の調査兒童の道德性及宗教性の研究と共に、之れに對する實際上の諸問題、また道德教育と宗教教育との關係、また新らしき問題としては性慾教育に關する攻究等、此の部の司る處です。

第十二部教育博物館 完全なる教育博物館が伴はざれば、學校も實驗室も魂のぬけ殻の如きものだと言はれて居ます。殊に茲に於て土曜講演の如きものが屢々開かれて、實物供覧により教師の教育が行はれるのです。

以上、十二部門は未だ委く完備した譯ではないや

うですが、兒童を中心とせる問題の、斯くも多方面に涉つて盡されんとしつゝあることは海のこなたからも大に賀さねばならぬこととあります。

○タンネル氏の「保育上の

三注意」

タンネル氏が去年十月の「幼稚園評論」誌上で、保育に關する三つの問題に注意をひいて居ます。其の第一は幼稚園に於ける衛生の注意である。氏の言ふ處を項を分けて見れば

(一) 幼兒の體質は成人と違ふて、有害なる微菌を殺すべき殺菌力に大に缺けて居る。即ち各種の小兒傳染病が多く且つ最危險な譯である。併し、左様の諸傳染病が、小兒には一度は必ず免れ難いものであると、信じあきらめて誰れも疑はぬといふのは、昔からの迷信である。醫學の進歩と衛生の發達は、かゝる誤れる考へを全然破棄し去るべきものである。